

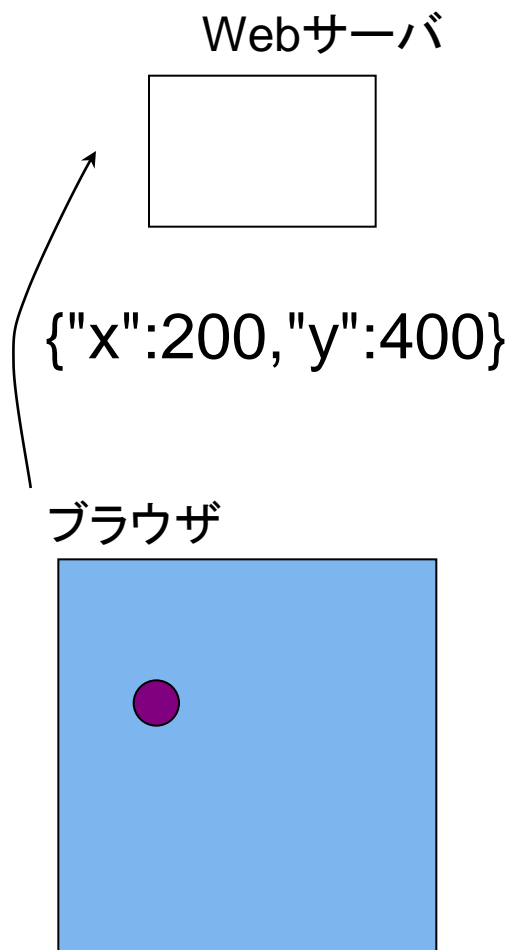
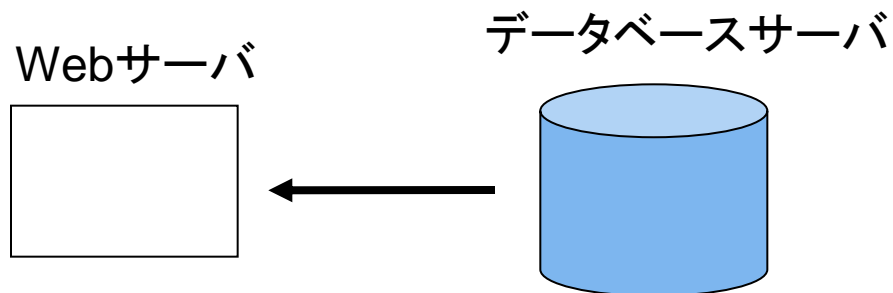
# Javascript Object Notation (JSON)について

# JSONの目的

- オブジェクトについての情報の転送

– 例:

- Webサーバとブラウザ
- コンピュータ間



```
{"id":"123456","name":"pochi","species":"dog"}
```

# JSONの特徴(1)

- テキストで書かれている
  - 人が読める
- 1つのオブジェクトは{}で囲まれている
- 1つのオブジェクトは、プロパティと値のペアを1つ以上含む。
  - 複数のペアはコンマ(,)で並べる
- プロパティも値もダブルクォーテーション(")で囲む。
  - ここが、単なるJavascriptのオブジェクトの表現と異なる。
  - 値が数値のときは、ダブルクォーテーションで囲まない
  - 値が配列のときなども、囲まない。
- 複数のオブジェクトを配列として転送できる。
  - 配列の要素はすべて同じ形式のオブジェクトであるべき。

```
{ [
  {"id":"1","name":"pochi", "species":"dog"},
  {"id":"2","name":"tama", "species":"cat"},
  {"id":"3","name":"taro", "species":"human"}
]}
```

# JSONの特徴(2)

- (再掲)値が配列であってもよい
  - これを利用して、配列にラベル(グループ名)を付けることができる
- プロパティがオブジェクトであってもよい

```
{ "pets": [  
  { "id": "1", "name": "pochi", "species": "dog",  
    "favorites": { "food": "meat", "place": "garden" } },  
  { "id": "2", "name": "tama", "species": "cat",  
    "favorites": { "food": "tuna", "place": "kitchen" } },  
]
```

# JSON形式のテキストファイルを 読み込む

jQueryのgetJSONメソッドを用いる(例参照)